第１０３号
CHIGASAKI 市立病院だより
平成１９年９月発行
発行／茅ヶ崎市立病院
茅ヶ崎市本村 5-15-1　Ｔｅｌ．52-1111
ホームページアドレス　http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/hospital/

泌尿器科

泌尿器科医長　藤浪　潔

茅ヶ崎市立病院泌尿器科は2007年4月より藤浪が、6月より小貫が新しく赴任し、2006年6月から着任している岡島、仙賀院長、他非常勤医師２名で診療にあたっております。

泌尿器科の病気は大きく分けますと、①前立腺肥大症をはじめとする排尿障害をきたす病気、②腎盂腎炎、膀胱炎等の尿路感染症、③停留精巣、陰嚢水腫などの小児泌尿器系の病気、④尿路結石、⑤前立腺癌、膀胱癌、腎癌、精巣癌などの泌尿生殖器癌などがあります。これらの病気を診断して、手術を含めた治療をするまでのすべてを泌尿器科で行っております。これらの病気の治療の実際について簡単にお話ししたいと思います。

①前立腺肥大症をはじめとする排尿障害をきたす病気は、くすりで排尿障害の改善をさせることが治療の中心です。

特に、このような病気は良性の病気ですので、患者さんの症状を改善させ、日常生活に困らないようにすることが目的となります。

大きい前立腺肥大症があり、くすりで症状が改善しない場合は手術を行います。

最近、くすりも良いものができてきて、手術をする患者さんは減少傾向にあります。医師と相談して納得のいく治療法を選ぶことが大切です。

前立腺肥大症の手術治療は内視鏡的な治療をおこないます。尿道から内視鏡を入れて手術を行うため、おなかに傷はつきません。入院は10日前後です。詳しくは医師にお尋ねください。

②尿路感染症の治療は抗生剤の投与が中心です。腎盂腎炎、急性前立腺炎などの発熱をきたす尿路感染症の場合は、入院して点滴治療を行うことをお勧めする場合がございます。

③小児泌尿器系の病気は先天的疾患が主ですので、自然治癒が期待できなければ手術が治療の中心となります。

④尿路結石で自然な排石が期待できない場合は、体外衝撃波結石破砕術(ESWL)を２泊３日の入院で行っております。ESWL で解決しない結石に対しては内視鏡的な治療を行っております。

⑤前立腺癌、膀胱癌、腎癌、精巣癌などの泌尿生殖器癌は、癌での死亡率が増加傾向にあります。また、病院によ

って癌の治療レベルの格差を指摘されており、いろいろな病院を渡り歩く、“がん難民”が問題となっております。

それに対して、がん治療の標準化を図るために、日本がん治療認定医機構というのが創設されました。泌尿器科では藤浪が暫定教育医となりました。

茅ヶ崎市立病院も、がん治療認定研修施設に申請中であり、がん治療において、茅ヶ崎だけでなく湘南地区の中心病院となるべく努力しております。

泌尿器科では泌尿生殖器癌の治療にもっとも力を入れております。この中で、一番患者さんの多い前立腺癌について簡単にお話させていただきます。

＊前立腺癌

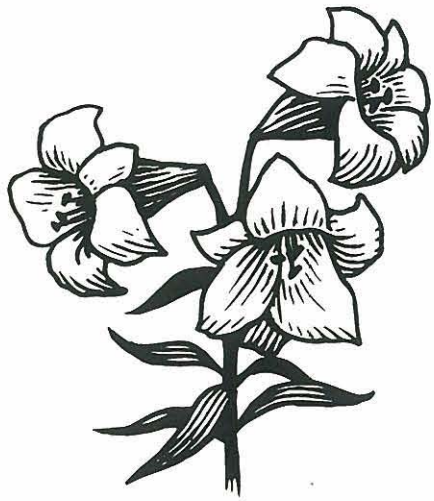
前立腺癌は現在日本で増加傾向にある癌です。2020年には男性において肺癌についで2番目の罹患率になると予測されております。

前立腺癌の診断では腫瘍マーカーのPSA（「前立腺特異抗原」と呼ばれる酵素）の使用により、採血をするだけで劇的に早期前立腺癌の発見率が上昇しております。PSAの出現前は前立腺癌の約半数の方が転移を起こした状態で見つかったのに対して、PSA出現後は転移で見つかる患者さんは約10%位に低下しております。

現在、PSA検診は日本の半数以上の自治体で行われております。最近、厚労省の研究班でPSA検診の有効性はないとの報告がなされたようですが、欧米のデータでPSA検診による前立腺癌の死亡率の低下が報告されております。

実際、現場の臨床に携わる泌尿器科医でPSAの有効性がないとは考えられません。日本泌尿器科学会でも研究班による有効性はないとの結論に反論していく予定のようです。

PSAにより前立腺癌の疑いがある患者さんの診断には前立腺に直接針を刺して組織を採取する前立腺針生検を行わなければなりません。針生検で大切なことは癌の生じやすい箇所から正確に、患者さんの苦痛を伴うことなく行うことです。そのために、当院では3泊4日の入院で麻酔をかけ、超音波で適切な箇所から、基本的に12本の生検を行うことにしております。これにより、より早期に診断し、その後の治療での治癒（治る）率の向上を目指しております。

前立腺癌と診断した後には手術、放射線、ホルモン療法等患者さま個々に合わせた治療を選択してまいります。

以上、簡単ですが泌尿器科のお話をさせていただきました。今後も高いレベルでの医療を提供できるよう努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。